

第 1 回松山市総合計画審議会議事録

日時	令和 4 年 1 月 2 8 日（金）午後 5 時～午後 6 時 5 分
場所	松山市役所本館 5 階 本部会議室
出席者	最終ページ参照

1. 開会

2. 挨拶

河合総合政策部長

- ・ 第 1 回松山市総合計画審議会の開催にあたって、ご挨拶を申し上げます。
- ・ 委員の皆様におかれましては、大変ご多用の中、ご出席を賜りますとともに、急なお願いにもかかわらず、委員への就任をご快諾いただき、誠にありがとうございました。
- ・ また、平素から市政の推進に格別のご理解・ご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。
- ・ 本市では、平成 2 5 年度から、第 6 次松山市総合計画に基づき、将来都市像「人が集い 笑顔広がる 幸せ実感都市 まつやま」の実現に向けて様々な取り組みを進めてきました。改めて、総合計画についてご説明申し上げますと、市の最上位の計画で、様々な取り組みの礎となるものです。来年度末で基本構想の 1 0 年間の計画期間が終了します。
- ・ そこで、新たな計画が求められるところですが、現計画の達成状況や時代の潮流の把握、現状・課題の分析など、策定には期間を要するため、本来であれば、もうすでに次期計画の策定に着手している時期でした。
- ・ しかし、コロナ禍により市民生活をはじめ、社会経済活動が大きく影響を受ける中、この影響がどれだけ出るのか、またどこまで続くのかといったことを見極めなければ、あらゆる分野にわたる計画ですので、今後 1 0 年先を見据えたビジョンを描くことは難しく、策定作業を見合わせているところでございます。
- ・ そのような中、現在オミクロン株の大きな影響が出ていますが、ワクチン接種や治療薬開発の進展などにより、社会経済活動との両立を図る段階にステージが変わってきており、ウィズコロナ・ポストコロナ時代にふさわしい新たなビジョンが求められる時期になってきていると感じています。
- ・ こうしたことから、来年度から次期計画の策定に着手したいと考えていますが、本来のスケジュールから 2 年遅れのスタートとなりますので、現行計画について、期間延長は避けられない状況です。
- ・ そこで、現行計画の期間延長についてご審議いただくため、当審議会を開催させていただきました。
- ・ 委員の皆様には、短期間での議論となり大変恐縮ですが、専門的な見地や豊富な経験に基づきご意見・ご提案をいただきますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。
- ・ どうぞ、よろしく願いいたします。

3. 委員紹介及び事務局職員紹介

4. 会長及び副会長の選出

事務局

- ・ 続きまして、「次第4. 会長及び副会長の選出」についてですが、当審議会の会長は、審議会条例第5条第2項の規定により、「会長は、委員の互選により定める」こととしております。どなたか会長のご推薦をいただけないでしょうか。

堀田委員

- ・ 松山大学の檀先生にお願いしたいと思います。

事務局

- ・ 堀田委員から檀委員をご推薦いただきましたが、よろしいでしょうか。

一同

(拍手)

事務局

- ・ それでは檀会長、会長席の方へお願いします。
- ・ 続きまして、副会長についてですが、審議会条例第5条第4項に「副会長は、委員のうちから会長が任命する」と規定しております。
- ・ 檀会長から、どなたかご指名をお願いします。

檀会長

- ・ 中核市サミットで一緒させていただいたご縁があり、地域連携や市民活動の経験も豊富でいらっしゃいます、前田先生にお願いしたいと思います。前田先生、よろしいでしょうか。

前田委員

- ・ 頑張らせていただきます。よろしくをお願いします。

一同

(拍手)

5. 諮問

事務局

- ・ 続きまして「次第5. 諮問」についてですが、河合総合政策部長から、松山市総合計画審議会の檀会長に対しまして、諮問書をお渡しいたします。

(諮問書交付)

事務局

- ・ なお、皆さまには、資料4として、お手元に諮問書の写しを配布させていただいておりますので、ご確認をお願いします。

6. 会長及び副会長挨拶

事務局

- ・ ここで檀会長、前田副会長から、ご挨拶をいただきます。まず檀会長、よろしく申し上げます。

檀会長

- ・ 改めまして松山大学の檀でございます。
- ・ 会長ということで、委員各位の格別のご指導、ご協力をいただきながら、先ほどの諮問に対して、しっかりとした答申ができるよう、全力を尽くしたいと思っておりますので、皆様方の専門分野について、ご教示いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

事務局長

- ・ それでは前田副会長、よろしく申し上げます。

前田副会長

- ・ ただいま、檀会長からご指名をいただきました愛媛大学の前田と言います。
- ・ 不慣れな立場ですが、檀会長をはじめ、それぞれのお立場でご活躍されている先生方のご協力を得ながら、努めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

事務局

- ・ ありがとうございます。
- ・ それでは、ここから先は、檀会長に進行をお願いします。

檀会長

- ・ それでは、議事を進めます。冒頭に事務局から、会議の公開・非公開についての説明がありましたが、議事に入る前に、これについてお諮りしたいと思います。
- ・ こうした会議ですので、公開が原則だと思いますが、会議を公開することについて、ご異議はありませんでしょうか。

一同

- ・ 異議なし。

檀会長

- ・ ご異議なしと認めますので、今後の審議についても公開といたします。

7. 議事(第6次松山市総合計画の期間延長等について)

檀会長

- ・ それでは「次第7. 議事」の「第6次松山市総合計画の期間延長等について」、事務局からご説明をお願いします。

事務局

(資料6 第6次松山市総合計画の期間延長等について 説明)

(資料7 審議会スケジュール 説明)

①第6次松山市総合計画基本構想変更(案)に関する審議

檀会長

- ・ この審議会では、先ほど諮問のありました「基本構想変更(案)」について審議するのがメインとなりますが、事務局の説明では、基本計画の変更や次期総合計画の策定に向けたご意見もあればいただきたいということでした。
- ・ 審議の方法としては、まず「基本構想変更(案)」について意見交換をして、そのあと基本計画や次期総合計画についても意見交換をさせていただければと思います。
- ・ それでは、まず「基本構想変更(案)」について、先ほど事務局から説明があったとおり、期間を2年延長するという案が示されていますが、何かご質問やご意見がございましたらお願いします。
- ・ まず、期間延長の是非についてですが、事務局の説明では、コロナの影響で、次期計画の着手が2年ほど遅れているという状況であり、パブリックコメントで市民の方からの意見がなかったことも含めて、期間延長はやむを得ないと考えますが、この方向で問題ないということでよろしいでしょうか。

一同

- ・ 異議なし。

檀会長

- ・ 次に、延長の期間について、事務局からは2年という案が示されていますが、1年でもっとスピーディーにやるべき、あるいは3年にすべきというご意見がありましたら、お願いいたします。
- ・ 資料6の1ページのスケジュールがわかりやすいと思いますが、令和4年度から次期基本構想を準備するとして、2年延長すれば、ちょうど空白期間を埋めることができますので、延長の期間は2年とするのが妥当ということよろしいでしょうか。

一同

- ・ 異議なし。

檀会長

- ・ 資料6にもありますが、総合戦略との一体化にもちょうどよいタイミングですので、2年が良いと考えます。
- ・ それから、期間延長以外に、内容についても踏み込んで見直す必要があるかどうかという点について、ご意見はありますでしょうか。

前田副会長

- ・ 基本計画の指標で、コロナ禍でプラスの影響があったものは、ある意味、目標を達成していると思います。今回の基本構想の延長にはあまり関係がない部分だと思いますが、基本計画の目標設定の見直しの考え方について、聞かせていただければと思います。

事務局

- ・ 現在検討しているところですが、例えば修学旅行に関する指標は、中四国からの旅行が急増して目標を達成していますが、これが元に戻ってしまうと、目標が達成できないということにもなりかねません。まずは、指標の影響が一時的なものなのか、今後も続いていくものなのか、また、かなり落ち込んでいるものは、現状に合わせて目標を下げてしまってもよいのか、今までの目標を維持していくのがよいのかという点について、来年度、庁内で検討していきたいと考えています。
- ・ なお、指標については、基本構想ではなく、基本計画に掲載しているものですので、基本計画の更新作業の中でしっかりと見ていきたいと考えています。

前田副会長

- ・ ありがとうございます。

檀会長

- ・ コロナの影響によって、半分くらいの指標はマイナスの影響を受けているという状況は、なるほどと思いますが、プラスの影響もあるというのが少し意外です。コロナ禍でもプラスになっているということで、これらの影響が一時的なものかということの見極めもこれから必要ということを理解しました。
- ・ その他、委員の皆様からのご意見はいかがでしょうか。質問等も含めてお気づきの点がございましたらお願いします。
- ・ 今回2年の期間延長ということですが、基本構想の内容については、市民の皆様の意見を広く集めるという形で策定されたものですので、その内容に手を入れるというのは非常に難しいかというところもあります。その当時の策定の経緯、経過も尊重して、今回変更するのは期間だけにとどめるということによろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

一同

- ・ 異議なし。

檀会長

- ・ それでは「基本構想変更(案)」については、このあたりにしたいと思います。
- ・ 次回までに、答申(案)をお示ししますので、よろしくをお願いします。

②後期基本計画の見直しに関する意見交換

檀会長

- ・ 次に、基本構想の下の「基本計画」について、事務局の説明では、基本構想の期間延長後に見直しを行うということでした。
- ・ 見直しにあたっては、資料6の2ページに掲げているようなキーワードが重要になってくると思います。ここ数年の社会情勢に基づき、DXをはじめ、働き方改革、地方移住、災害、SDGsといったキーワードが挙げられています。この表に掲げられているキーワード以外で、これも考慮すべきだという他のキーワードがありましたら、ご意見をいただければと思います。

堀田委員

- ・ 私はこの計画の策定に関わっており、10年という期間は本当に長く、価値観や状況も変わっていると思うのですが、その当時は「女性活躍」がキーワードでした。今はそれも含めて、「働き方改革」というように変わってきていると思うのですが、労働環境について、コロナ禍で非正規雇用の問題は、以前より一層状況が悪化しているのではないかと思います。そのような点も含め、「女性の労働状況」についても、気になるところです。
- ・ また、子育てについては、「子どもの貧困」や「学習格差」についても非常に気になっています。

檀会長

- ・ その他こういったキーワードが漏れていないかというご意見がありましたらお願いします。
- ・ 私は、デジタルの専門なので、大学ではオンライン授業という形で、様々な取り組みをしていますが、皆様方の専門分野の中で、この数年どのような動きがあったかについて情報提供いただければと思います。

村岡委員

- ・ コロナ禍の影響として、「教育格差」は逃してはならない点だと思います。
- ・ また、「地方移住」に関しては、「子育て世代の方が興味関心を持って移住するにあたり、「就労」、「自然環境」、「子育て環境」という点が重視されていると、内閣府や民間の金融機関の調査でも言われていますので、そういったキーワードを踏まえながら、次期計画の策定は検討する余地がある」と思います。
- ・ さらに、コロナの影響で、居住地にかかわらず、「テレワークが拡大するなど、働き方が多様化」しました。これまでの移住政策では、「就労」、「働き口」だけに焦点を当てていましたが、「企業側としても働き方の多様化に対応できるような仕組み作りが必要ではないか」と思います。その「仕組みづくりをバックアップするのが、自治体であってもよいのではないか」と思います。そのような点も踏まえて、今後の策定に生かしていったらどうかと思います。
- ・ そして、福祉の観点とSDGsについて、「地方に分散して拠点を移す企業が、大手企業でも出てきましたので、そのような企業と自治体が組み合わせりながら、何かプロジェクトをできないか」と思います。福祉の領域に、ソーシャルマーケティングという分野があるのですが、そういったスキルを活かしながら、「企業ニーズだけではなく、地域の課題解決に向けた活動」ができ

ないかと思ひます。そうすることで、その企業のブランディングにも繋がってきますし、自治体としても独自の取り組みとして、注目されるのではないかと思ひます。

- ・まずは、松山市がどういった取り組みをしているのかについて、移住希望者や若い世代の方に注目してもらわなければなりませんので、注目してもらうためのきっかけとしてソーシャルマーケティングがあってもよいのではないかと思ひます。

檀会長

- ・ありがとうございます。マーケティング、ブランディングも含めて考えていくことが重要だと思ひます。

影浦委員

- ・保育が専門なので、子育て分野についてですが、乳幼児期の保育や教育の質が、40年後に子どもたちが大人になった時に、社会全体に影響するということを実感しています。そういう意味で、安心して子育て、教育できる環境というのは、より一層重要視されていると思ひます。

中尾委員

- ・防災分野について、災害のリスクは10年前に比べたら大きくなっていると思ひます。
- ・松山市の防災の取り組みのキーワードは「全世代型」あるいは「切れ目のない」であると思ひます。
- ・防災士の数が全国一ですが、その方たちや子どもたち、様々な関係機関との繋がりなどについて、もっと総合的に取り組まなければならないと思ひます。
- ・また、若者がキーパーソンになると思ひますが、防災分野では、例えば高校生の提案を活かして広報しているところがあります。
- ・子どもたちは、まちづくりに対しても、様々な思いを持っていて、表出する場があれば、言えるのではないかと思ひます。若者をキーパーソンとして、受け入れる場があるとよいのではないかと思ひます。
- ・そして、デジタル化については、学校のGIGAスクール構想なども進んでおり、10年前とは全く変わってきています。
- ・SDGsもそうですが、この2年間でどんどん社会情勢が変わってくると思ひるので、松山市が、このような変化について、どのように皆さんの意見を聞いて、取り入れ、どう具体化していくのかというところが難しいですが、対応していただけたらよいのではないかと思ひます。

檀会長

- ・地域の活性化や若者はキーポイントになりますし、子育てにも通じますが、人材育成は、非常に重要だと思ひます。

前田副会長

- ・現在、地域活動、ひいては地域自体がコロナで分断されています。
- ・コミュニティをどのように活性化し、元気にしていくことができるのかというのが課題で、コロナ禍で、活動がストップしている現状は、このままではいけないと思ひます。

- ・以前なら今回のような会議もできなかったと思うのですが、コロナへの対応が少しずつ分かってきて、感染防止対策をしながら、実施できることがだんだん増え始めたと思います。
- ・コロナ禍で地域活動をどのように進めていくのが重要です。公民館を含め、公的機関は、このような状況ではすぐに閉館して、活動の拠点がなくなってきます。
- ・経済活動を止めないやり方というのは、少しずつ生まれてきたと思いますが、地域活動を止めないやり方、コミュニティ活動を止めないやり方を考えていけたら良いのではないかと思います。その際に、「コラボレーション」や「協働」を進めていくことができれば良いと思います。
- ・テーマとしては、先ほど言われた「防災」もあるかもしれませんが、地域の支え合いについて考えるきっかけになれば良いと思います。
- ・また、SDG sには17の多様なゴールが設定されていますが、重点項目を決めていかないと、力が削がれてしまうかもしれないと思いました。SDG sの目標年は2030年ですが、2025年から起算すると5年間しかありません。次期総合計画の改定にあたっては、ポストSDG sをしっかりと見据えた形で進め、積み上げていく必要があると思いました。SDG sでいうと、2030年に達成していない目標が多く出てくると思いますが、2035年まで少し先を見据えた形の目標設定ができていくとよいのではないかと思います。

檀会長

- ・SDG sの目標の期限も含めて、スケジュールも大事になってきますね。「ポストSDG s」というキーワードがありました。

中矢委員

- ・経済界から見ると、デジタル化、SDG sに加え、コロナ禍の一番大きな変化は、「グローバル化」と「ダイバーシティ」だと思います。グローバル化は日本だけ止まっている状態で、地域には、外国人が来なくなってインバウンド消費は冷え込んでいますが、ビジネスの世界ではデジタル化により、シームレスになり、グローバル化が進んでいます。コロナ後も外国人材の活用とインバウンドは松山市の経済発展の核になると思います。
- ・日本の経済力が落ちているため、外国人に選ばれない日本になってきていると思うので、「ダイバーシティ」は、一種のカオスを目指すようなところもあると思いますが、ダイバーシティやグローバル化を進めることは、ポストコロナの経済成長には欠かせないと思います。

檀会長

- ・「グローバル化」と「ダイバーシティ」ですね。「インバウンド消費」も含めて、経済面についても考えていきたいと思います。
- ・それでは「基本計画」の見直しについては、このあたりにしたいと思います。

③次期総合計画の策定に関する意見交換

檀会長

- ・最後に、「次期総合計画」について、事務局の説明では、来年度から市民意識調査を実施するなど、策定に着手するということでした。
- ・総合戦略との統合も検討しているということでしたが、そういった点も含め、次期総合計画

の策定に向けてご意見がありましたらお願いいたします。

- ・特に人口減少社会がこれから加速していくと思いますが、検討に当たって、何か観点や視点がありましたら、お願いします。

堀田委員

- ・人口減少社会について、「少子高齢化」というように、まとめて呼ぶことが多いのですが、「少子化」と「高齢化」は別物だと思っています。高齢化は言葉を選ばずに申し上げると、メリットやプラスの部分もありますが、少子化には何もメリットがないと思っています。少子化と高齢化を分けて考えるべきで、少子化に焦点を当てた現状把握や対応については、もう少し掘り下げて検討する必要があると思います。

前田副会長

- ・これまでは総合計画と総合戦略の2本立てで動いているような感じだったので、今回総合計画と総合戦略を統合すると、すごくわかりやすくなると思います。ちょうど開始年度も合うため、連携も取りやすくなると思います。
- ・また、総合戦略については、以前もお話したのですが、KPIの評価の仕方が課題だと思っています。松山市はKPIの達成率が結構高いのですが、KPIを達成したけれども、本当に生活の実感として豊かになっているかという点、KPIの数値だけでは測れないことが多くあるのではないかと思います。KPIの数値を見て「よくできました」のように、花丸のハンコがついていても、生活する側としては「そんなことないよ」という差異のようなものがあるので、その差を埋めていけるような考え方が必要だと思います。
- ・KPIの設定の仕方も課題ですが、人口減少については、松山市がよその人から選ばれるまちになっていかなければならないと思います。そのためにも、ビジネスや生活の面でも、松山市で暮らしたいとみんなが思ってくれないと、なかなかそのようにはならないと思います。
- ・先ほどの少子化対策についても、子どもを安心して産める環境や社会になっていくことが大事で、選ばれるまちとはどんなまちかということを描いていく必要があると思います。
- ・また、よくキーワードとして「若者」と言われますが、若い人にとってみると、あちこちで担わされるものがあって、とても大変だと思います。
- ・課題解決型で若い人たちが頑張って課題を解決していくというよりも、若い人たちが自ら本当にやりたいことをやれる環境があり、若い人がやりたいことをやって、結果的に課題解決につながっているというやり方の方がよいのではないかと思っています。
- ・総合計画や総合戦略を見た人が、やっぱり松山市を選んでいきたいと思えるような道を探っていくことで、改定時期の流れで作りましたというだけではない、イノベーションを起こす、松山らしい総合計画になっていけば良いと思います。

檀会長

- ・ありがとうございました。松山市が魅力あるまち、特に若者から支持をされ、選ばれるまちであるために、非常に重要な観点であると思いました。
- ・今後、市民意識調査をしながら次期計画の策定について検討していくことになりますが、若者に市政についてコメントしてくれと依頼しても、しにくいこともあるかと思います。コロナ

禍において、どのように市民からの声をくみ上げるのかについて、オンラインを活用することも、今だったらありではないかと思います。オンラインを活用することで、コロナの影響があっても会合をしたり、多くの人の意見を吸い上げることができるのではないかと思います。

- ・大学でも、オンライン授業やハイブリッド式で授業をやっていますが、ハイブリッド式で、対面で教室に来たい人は来てもいいよ、オンラインで受けたい人はオンラインでもいいよとすると、結構大変で、非常にコストもかかって、教員の負担も大きくなってきます。ただ、その分、満足度は高くなります。多少苦勞はあっても、そういった方法を取り入れていってもよいのではないかと思います。

堀田委員

- ・先ほど前田先生が言われたように、K P Iについて、人口減少や少子化といった分野は、数字で測りづらい目標、成果が多くあり、単年度で達成できることはなかなかありません。
- ・手段を測ることで終わっているK P Iも多く、例えばイベントの回数や参加人数が多ければ、目標を達成できたかというそうではないため、定性と定量のバランスをとり、数字で捉えられる定量的なものだけではなく、定性的な評価をもう少し充実しなければ判断しづらいと常々感じています。環境分野などは数字で測りやすいのですが、教育やジェンダーについては成果を数値で測りにくいいため、そういった分野での定性的な評価についても、これをきっかけに考えていけたらよいと思います。

檀会長

- ・K P Iについて、手段と目的が逆にならないように設定し、数字だけではなく、定性的に把握していけるよう、工夫することが重要だと思います。

中矢委員

- ・総合計画や松山市の方向性とは少し異なるのかもしれませんが、人口減少の問題については、松山市だけで考えて、数字を出しているのかということを経済から見ると感じています。
- ・松山市は、県内で最も恩恵を受けているところで、県内の他の市町からは「松山はええよね」と言われることが多くあります。
- ・経済的なことを紐解くと、東予や南予のリソースによって松山の経済が成り立っている部分も非常に大きいので、単純に松山だけ人が増えて、周りの人口が減ったら、松山は経済的に幸せなのかというそうではないと思います。
- ・そのため、人口減少対策に関しては、SDG sの考え方もそうですが、独善的ではなく、より一層、連携や共存といったイメージがあれば、他の市町とも連携しながらやっていけるのではないかと思います。

檀会長

- ・確かに松山市だけが発展するのではなく、周辺も含めて、うまく全体が盛り上がっていくことが大事だと思います。
- ・それでは、意見が出尽くしたようですので、今回の審議は終了いたします。
- ・なお、第2回審議会でご答申（案）についてご審議いただく中で、改めて全体を通してのご協議

をいただきたいと考えております。

- ・第2回審議会は、2月3日木曜日の午後1時30分から、この会場で開催しますので、よろしくをお願いします。

8. 連絡事項

事務局

(事務局説明)

9. 閉会

以上

第1回松山市総合計画審議会委員名簿 出席者名簿

所属等	氏名
松山東雲女子大学心理子ども学科 准教授	影浦 紀子
松山大学 副学長・経営学部教授	檀 裕也
愛媛大学防災情報研究センター 特定教授	中尾 順子
松山商工会議所 事務局長	中矢 斉
特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ 理事長	堀田 真奈
愛媛大学社会連携推進機構 教授・SDGs 推進室副室長	前田 眞
聖カタリナ大学人間健康福祉学部 教授	村岡 則子

(敬称略・五十音順)